

コロナ禍での地域共生のいえづくり

コロナ禍での生活も2年半が経ちました。どのような状況であっても人は誰かとつながりたいと願います。自身や他者の楽しみのため、何らかの課題解決や課題を未然に防ぐため。多様な想いが混在しているのが「居場所づくり」でしょう。昨年末には地域共生のいえを希望する

オーナーからの問い合わせが久しぶりに出てきました。多様な想いを受け止めて育てていく「場」を、お2人のオーナーとそれぞれ計画しています。地域共生のいえに関わる方々と接していると、歩みを止めない大切さと、一旦止まったとしても前を向き続ける大切さを感じます。

(山田)

地域共生のいえ かわら版 第17号

第17号

発行 令和4年11月

各いえからの寄稿

在林館 木漏れ日のギャラリー

在林館は10周年——
“ミュージアム”で“休み石”

その昔、ふたつのことが私に“住まいを開く”意味を確認させてくれました。ひとつは西ドイツの高齢者住宅基準の“居間の窓が道に開いていること”という項目。なるほど、視線を交わし、言葉を交わし、非常時には避難を助けられる。もうひとつは新聞の投書欄にみつけた“休み石”。その女性の出身地の会津には家の門あたりにあったという。歳をとった今、誰でもひと休みできるその石のありがたさが分かったとのこと。“休み石”は道に面した敷地の内側に置かれていたのではないかと。

自分も住まいを開こう、と思うようになったのはその20年ほど後。トラストが「地域共生のいえ」の試行を始めたころでした。実際に開くことになるのはさらに10年ほど後。“自分らしく開くことだ”と、いくつかの共生のいえの見学をおして学んだのです。

そうして開いた在林館が10周年を迎えまし



所在地 DATA

世田谷区羽根木 2-34-4
*京王井の頭線
「東松原駅」より徒歩4分
連絡先
03-3321-0530
活動日
HPをご覧ください
<http://aririnkan.blog.fc2.com/>



た。開いてすぐに地域共生のいえに仲間入り。3年ほどたったころ、息子にも見せたいと連れてこられた中学生が“ここはミュージアムみたい”と言いました。トラストにいただいた“木漏れ日のギャラリー”もそのとおりですが、“まちの小さなミュージアム”が10年の活動の表現になっているように思います。まちの歴史を語り継ぐことが在林館の主要なテーマです。

そしてまちの“休み石”。コロナ禍にあっても、散歩の途中の一休みの場所として開いてきました。10周年記念に、生垣を伐り開いて、ほんとうの休み石を作っているところです。

(在塚礼子)



らくらくハウス

イラスト：飄齋（小塚秀忠）

かつてはご近所さんに助けていただいた。

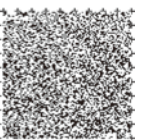
二子玉川にもう一軒、地域共生のいえを。

ご近所で「らくらく」と助け合える力のある場を、と願って。

発行：一般財団法人 世田谷トラストまちづくり
〒156-0043 世田谷区松原 6-3-5
TEL 03-6379-1621
<https://www.setagayatm.or.jp>



「地域共生のいえ」とは、オーナー自らの意思により家・建物を地域の公益的かつ営利を目的としないまちづくり活動の場として地域に役立てる取り組みです。



1 らくらくハウス

ご恩返しにと、もう一軒



矢野さん 温井さん

まちの「らくらく」な場にとひらいた家

秋晴れのひととき、多摩川の河川敷で子どもたちの声が響く。ハチがいたと指差す子に、先生が

「大丈夫、あれは多分来年の巣の場所を探しているんだね」

柔らかな秋の日差しにキラキラ光る川面。大人も子どもも笑顔だ。

今日は2022年3月に登録された地域共生のいえ「らくらくハウス」で「ごちゃまぜラーニングセンター」*1の「図工」の時間。「心地いい場所づくり」というタイトルで多摩川の河原で過ごす時間にお邪魔した。

「らくらくハウス」は、地域共生のいえ「ぬくぬくハウス」と同じ温井克子さんがオーナー。今回、予想外の収入があったため、地域のために、同じ町内の築約60年の建物と土地を温井さんが取得した。

家に入ると、続き間がログハウスのような木

多摩川での「図工」の時間（2022年10月）



枠に囲まれている。この木枠は耐震シェルターになっており、一般社団法人耐震住宅100%実行委員会*2から寄贈されたものだ。温井さんの想いに共感し、設置に至った。物々しいイメージがある耐震シェルターだが、これは自然の木を使っていて、柔らかな印象だ。河原から帰ってきた子が、早速木枠に寄りかかってゲームをやっている。

戦後、ご近所の方々に 助けていただいた記憶が今も

温井さんは「ぬくぬくハウス」で子ども食堂を開催し、地域には十分に貢献しているようにも見える。だが第二次世界大戦時に、父親がシベリアに抑留され、6年近くも離れ離れだった経験がある。その時にご近所さんや民生委員さんが細やかに支え、助けてくれた。家族が支えられ、生き延びることもできた。このご恩があるからこそ、この地域で助け合う場があればという熱意が今も温井さんを突き動かしている。

タワーマンションが建ち並び、世田谷でも有数の「おしゃれタウン」として名高い二子玉川だが、温井さんは「そんな場所だからこそ、困っている人は声を上げにくいし、格差もある」と語る。子ども食堂は大人も子どもも来られるように「まぜっこ食堂」と名づけ、利用者は1日に70名を超えることもあった。

「らくらくハウス」の地域共生のいえ憲章*3には「自分たちの問題はご近所で助け合って解決していく」と、ある。自立と孤立の境界が曖



「らくらくハウス」の内観

昧な今の世の中。「ご近所」で「助け合う」ことの重要性を実感している温井さんのような「ごちゃまぜ力」のある人は貴重だ。

時が移り、形は変わっても、 助け合える地域に

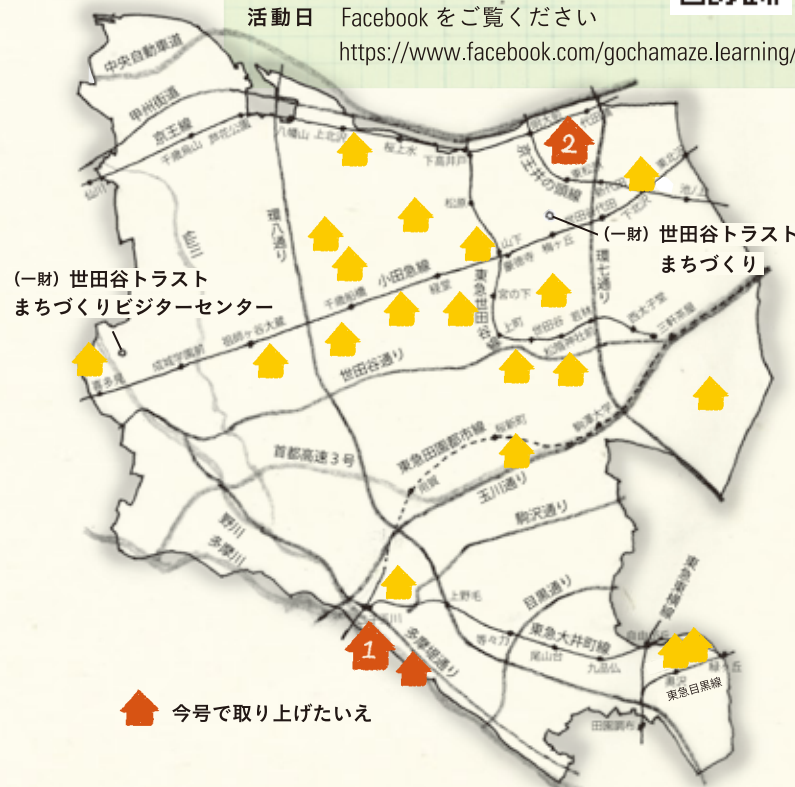
「ごちゃまぜラーニングセンター」の現代表である矢野扶美さんは学校に行っても行っていないなくても、発達に多少のデコボコがあっても、みなで楽しく学ぶ機会が欲しく世田谷区にもオルタナティブスクール*4を、と活動していた時に「ごちゃまぜラーニングセンター」の活動と出会い、今があるという。そして、「らくらくハウス」のような場があちこちにあると、内容も、場所も、選択肢が多くなる。それはきっと豊かな時間になっていくと話してくれた。

多摩川の水も、他の河川の水も、その先の海でひとつになる。大人も子どもも、困難なことを抱えていてもお互いを理解し、支え合えれば、その先にあるのはきっと孤立や排除とは無縁のもの。時が移り、形は変わっても、お世話になった地域とともに在り続けたいという、温井さんのような想いのある人がいれば、地域もまだまだ捨てたもんじゃない。身も心も「ぬくぬく」と温まったら「らくらく」になっていく。そんな期待がふくらむ。

- *1 ごちゃまぜラーニングセンター
大人も子どもも、障害の有無も、学校に行く行かないも区別なく、ごちゃまぜで誰もが学び合い、助け合う活動。「らくらくハウス」や地区会館等を拠点に活動している。
- *2 (一社) 耐震住宅100%実行委員会
「日本の住宅を100%耐震住宅に」をミッションに全国の工務店、住宅関連会社で設立。「木質耐震シェルター70K」を株式会社NCNと共同開発。部屋単位で設置でき、家屋の崩壊から一定の空間を確保することで命を守る。
- *3 地域共生のいえ憲章
世田谷トラストまちづくりのホームページに掲載
- *4 オルタナティブスクール
欧米の哲学的思想をもとに発展していったオルタナティブ教育を取り入れた学校のこと。画一的な教育ではなく、個人を尊重し子どもが本来持っている探求心に基づいて、自律的・主体的に学習や行事が展開されるようにカリキュラムが組まれていることが多い。

DATA

所在地 世田谷区玉川1-8-2
連絡先 5chamaze.learning@gmail.com
03-3707-0037 (温井)
活動日 Facebook をご覧ください
<https://www.facebook.com/gochamaze.learning/>



今号で取り上げたいえ